

教科の研究 主題	問題意識をもち、自ら追究する態度を育む社会科学習指導の在り方 －「活用すること」を通して調べること・考えること・表現することの一体化を図った仮説・検証型の学習を通して－
-------------	---

授業のテーマ	現代社会における人権問題について、丹念な事実認識を通して問題点を発見し、習得した知識や生活体験を活用しながら追究活動を展開していく学習指導法の工夫
--------	---

- 1 単 元 人間の尊重と日本国憲法  
2 目 標

- ・ 共生社会における人権問題を、基本的人権を中心とした人間の尊重の立場で考えようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・ 共生社会において、各種の人権問題を人間尊重の立場から、多面的・多角的に考察することができる。 (思考・判断)
- ・ 基本的人権における各権利が、日本国憲法で保障されており、その意義や過程についてまとめたり、説明したりすることができる。 (技能・表現)
- ・ 基本的人権の理念は、現代の社会生活における人間の生き方の指針となると考えられることについて理解し、その知識を身に付けることができる。 (知識・理解)

3 単元について

本単元は、特に、人権に関わる問題について、日本国憲法の基本原理の一つである「基本的人権の尊重」が、実際の社会の中でどのように生かされ、人権にかかわる一つ一つの事実が、すべて法的な根拠のもとに成り立っていることに気付くことをねらいとしている。しかし、実際の社会では、様々な差別問題が国内的にも国際的にも存在することは事実であり、いまだに根本的な解決を見ていない。人権にかかわる諸問題を解決するためには、単なる事実認識にとどまることなく、行政レベル・民間レベルにおいて、さまざまな人々が粘り強く努力を続けていることに目を向けると同時に、なによりも社会の形成者である生徒自身が、よりよい社会にするためには何が必要で、何を実践していかなければならないのかについて気付くことが大切である。

本学級の生徒は、社会科の学習において調べること、作業すること、まとめることなどに熱心に取り組むことができる。一方で、社会的事象に対して、既習の知識や生活経験を活用して自分の社会観を形成する力は、十分に育っているとはいえない。そこで本単元では、「調べた事実からより多くの問題点や課題を発見し、その知識を活用して考え、表現する」という学習過程を多く経験させることにより、社会的な見方や考え方を身に付けられるようにする。また、本単元を学習するにあたり、アンケートの結果次のようになった。

アンケート項目	結 果			
・ 生活の中で、人権問題について意識しているか。	常に意識している	2人	時々意識している	4人
	あまり意識していない	13人	全く意識していない	2人
・ ハンセン病について知っているか。	よく知っている	0人	部分的に知っている	2人
	ほとんど知らない	9人	全く知らない	10人

アンケートの結果から、ハンセン病を含めた人権にかかわる問題については、普段の生活の中で関心をもつことは少なく、また、意識しなくても特別困ることはないという結果がうかがえる。ハンセン病を取り上げる意図は、一つの事例に絞り深く追究できるようにしたいという点と、教師自身が過去にハンセン病にかかわった経験があり、人権に対する見方や考え方の変容を期待するには最適な教材であると考えられる点によるものである。

人権に対する生徒の低い意識を、どのように変えていくかが学習の柱となる。「差別問題＝解決すべきこと」と、短絡的に結び付けるのではなく、長い年月をかけても解決することが困難であることの原因はどこにあるのかについて、ねらいをもった調べ活動や話し合い活動を通して迫っていきたい。それらの活動の中で、現実の社会における真の共生社会の在り方を問いかけ、生徒自身の人権に対する見方や考え方の深まりを期待したい。

4 学習計画 (8時間取り扱い) ※本時以降は、真の共生社会をつくるための仮説をたて検証するものとする。

時間	学習過程	目 標	評価規準
②	真の共生社会をめざして (本時は第2時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハンセン病の事例について、人権にかかわる問題点や課題について理解する。</li> <li>・ ハンセン病の事例を通して、本当の意味での共生社会を構築するにはどのようにすればよいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハンセン病の病的特徴や差別問題について、歴史と関連づけて理解している。(知識・発表 ワークシート)</li> <li>・ ハンセン病にかかわる課題を明らかにし、本当の意味での共生社会の在り方について考えている。(思考・行動観察 ワークシート)</li> </ul>

5 本時の学習

(1) 目標

- ・ ハンセン病の事例を通して、差別問題にかかわる課題を明らかにし、本当の意味での共生社会を構築するにはどのようにすればよいか考えることができる。 (思考・判断)

(2) 準備・資料

- ア 教師 ハンセン病に関する資料 ワークシート
- イ 生徒 事前調べで使用したワークシート及び資料

(3) 展開

学習活動及び内容	基礎的・基本的知識・技能を高める工夫	教師の支援・留意点
<p>1 本時の学習課題について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>一人権をおかされた ハンセン病患者— 真の共生社会をつくっていくためには、どのような努力が必要だろうか。</p> </div> <p>2 ハンセン病に関連する事実概要について発表し、人権侵害にかかわる課題を明らかにする。</p> <p>3 自分の家族が今、ハンセン病を発症したらどのような状況になるのかを考え、現実問題として人権侵害が起り得るかどうかについて検討し合う。</p> <p>④ 元ハンセン病患者のインタビューテープの内容を聞き、本当の意味での共生社会をつくり上げていくにはどのような努力が必要かについて考える。</p> <p>5 学習をふりかえって自己評価をし、次時の見通しをもつ。</p>	<p>基礎的・基本的知識・技能を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 差別によってどのように人権侵害が発生したのかを分析的にとらえる。</li> <li>◎ 既習事項の「基本的人権」を保障するための権利（自由権・平等権・社会権）及び共生社会の意味を活用して考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に学習したハンセン病患者に対する人権侵害は、未だに解決していない問題であることを確認し、自分としてどうこのことに向き合っていけばよいかを考えることが学習のねらいであることを伝える。</li> <li>・ ハンセン病に対する正しい事実認識（感染力や発現が弱い、現代の医学で治癒可能、強制隔離政策が行われてきたことなど）がもてるように、調べた内容から意図的に指名し、発表させる。</li> <li>・ どのような人権侵害があったのかを、憲法にある内容を根拠として具体的に述べられるように助言する。</li> <li>・ 憲法と関連付けられない生徒には、基本的人権を構造化したプリントから考えるよう助言する。</li> <li>・ 自分が差別問題に直面した当事者となったという想定で人権問題をとらえることで、より切実感をもって考えられるようにしていきたい。</li> <li>・ 地域社会でも、ハンセン病に対する偏見や差別が起り得るかどうかを話し合いの柱立てとして、多面的・多角的な考えを引き出せるようにする。</li> <li>・ 実際の人物の思いや願いを、それまでの自分の人権に対するとらえ方に照らして、自分なりに共生社会の在り方について考えられるようにする。</li> <li>・ プライバシーに関する内容には細心の注意を払うとともに、政治的には深入りしないようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハンセン病の事例を通して、差別問題にかかわる課題を明らかにし、本当の意味での共生社会を構築するにはどのようにすればよいか考えている。 (思考、行動観察 ワークシート)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習前と後では、どのような点で自分の考えに変容が見られたかという観点で評価できるようにする。</li> </ul>